

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
【部門区分】第 5 部門第 3 区分  
【発行日】平成 21 年 5 月 14 日 (2009.5.14)

【公開番号】特開 2007-271172 (P2007-271172A)  
【公開日】平成 19 年 10 月 18 日 (2007.10.18)  
【年通号数】公開・登録公報 2007-040  
【出願番号】特願 2006-97908 (P2006-97908)  
【国際特許分類】

**F 2 4 F 13/28 (2006.01)**

【F I】

F 2 4 F 1/00 3 7 1 A

【手続補正書】

【提出日】平成 21 年 3 月 29 日 (2009.3.29)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

本体に設けられた吸込口と吹出口を結ぶ空気通路に、除塵用のエアフィルターを配置してなる空気調和機において、前記エアフィルターに付着した塵埃の除去手段として、基台とブラシ片を有する除塵体が形成されており、前記ブラシ片は、先端部が根元部よりも細い先細り形状としたことを特徴とする、空気調和機の清掃装置。

【請求項 2】

本体に設けられた吸込口と吹出口を結ぶ空気通路に、除塵用のエアフィルターを配置してなる空気調和機において、前記エアフィルターに付着した塵埃の除去手段として、基台とブラシ片を有する除塵体が形成されており、前記ブラシ片は、前記エアフィルターに接触する先端部を略球形状としたことを特徴とする、空気調和機の清掃装置。

【請求項 3】

本体に設けられた吸込口と吹出口を結ぶ空気通路に、除塵用のエアフィルターを配置してなる空気調和機において、前記エアフィルターに付着した塵埃の除去手段として、基台とブラシ片を有する除塵体が形成されており、前記ブラシ片は、前記エアフィルターに接触する先端部を少なくとも 2 つ以上に細分割したことを特徴とする、空気調和機の清掃装置。

【請求項 4】

本体に設けられた吸込口と吹出口を結ぶ空気通路に、除塵用のエアフィルターを配置してなる空気調和機において、前記エアフィルターに付着した塵埃の除去手段として、基台とブラシ片を有する除塵体が形成されており、前記ブラシ片は、先端部が前記基台平面に対する垂直方向に対して傾斜角度を有していることを特徴とする、空気調和機の清掃装置。

【請求項 5】

本体に設けられた吸込口と吹出口を結ぶ空気通路に、除塵用のエアフィルターを配置してなる空気調和機において、前記エアフィルターに付着した塵埃の除去手段として、基台とブラシ片を有する除塵体が形成されており、前記ブラシ片は、根元部から先端部にかけて波形状を有していることを特徴とする、空気調和機の清掃装置。

【請求項 6】

本体に設けられた吸込口と吹出口を結ぶ空気通路に、除塵用のエアフィルターを配置し

てなる空気調和機において、前記エアフィルターに付着した塵埃の除去手段として、基台とブラシ片を有する除塵体が形成されており、前記ブラシ片は、先端部がループ状に形成されていることを特徴とする、空気調和機の清掃装置。

【請求項 7】

本体に設けられた吸込口と吹出口を結ぶ空気通路に、除塵用のエアフィルターを配置してなる空気調和機において、前記エアフィルターに付着した塵埃の除去手段として、基台とブラシ片を有する除塵体が形成されており、前記ブラシ片は、長手方向の根元部から先端部にかけて3本以上の稜線が形成されていることを特徴とする、空気調和機の清掃装置。

【請求項 8】

本体に設けられた吸込口と吹出口を結ぶ空気通路に、除塵用のエアフィルターを配置してなる空気調和機において、前記エアフィルターに付着した塵埃の除去手段として、基台とブラシ片を有する除塵体が形成されており、前記ブラシ片は、導電系を有していることを特徴とする、請求項 1～7 のいずれか 1 項に記載の空気調和機の清掃装置。

【請求項 9】

本体に設けられた吸込口と吹出口を結ぶ空気通路に、除塵用のエアフィルターを配置してなる空気調和機において、前記エアフィルターに付着した塵埃の除去手段として、基台とブラシ片を有する除塵体が形成されており、前記ブラシ片は、撚り線、あるいは導電系入りの撚り線にて形成されていることを特徴とする、空気調和機の清掃装置。

【請求項 10】

請求項 1～9 記載のうち、何れかに記載の清掃装置を有する、空気調和機。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0010】

第1の発明は、本体に設けられた吸込口と吹出口を結ぶ空気通路に、除塵用のエアフィルターを配置してなる空気調和機において、前記エアフィルターに付着した塵埃の除去手段として、基台とブラシ片を有する除塵体が形成されており、前記ブラシ片は、先端部が根元部よりも細い先細り形状としたので、前記エアフィルターの表面に柔らかに接触して前記エアフィルターの表面を効率よく拭き取る。また前記エアフィルターの網目にくい込むように接し、かつ根元部が先端部に比べて太いので、腰のある前記除塵体が形成され、前記エアフィルターに付着した塵埃を、効率よく掻きとることができる。また、前記エアフィルターの網目の破損を少なくするとともに、前記空気調和機の表面に傷をつけずに清掃ができる。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0011

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0011】

第2の発明は、本体に設けられた吸込口と吹出口を結ぶ空気通路に、除塵用のエアフィルターを配置してなる空気調和機において、前記エアフィルターに付着した塵埃の除去手段として、基台とブラシ片を有する除塵体が形成されており、前記ブラシ片は、前記エアフィルターに接触する先端部を略球形状としたので、前記エアフィルターに付着した塵埃の清掃の際に、前記エアフィルターの網目の破損を少なくすることができる。また前記ブラシ片の先端部を、前記エアフィルターの網目よりも、小さな略球状にすれば、前記エアフィルターの網目にくい込み、前記エアフィルターの網目から外れる際に、前記エアフィルターに振動を与え、前記エアフィルターに付着した塵埃を、より効率よく掻き落とすこ

とができる。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0012

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0012】

第3の発明は、本体に設けられた吸込口と吹出口を結ぶ空気通路に、除塵用のエアフィルターを配置してなる空気調和機において、前記エアフィルターに付着した塵埃の除去手段として、基台とブラシ片を有する除塵体が形成されており、前記ブラシ片は、前記エアフィルターに接触する先端部を少なくとも2つ以上に細分割したので、前記エアフィルターの表面を効率よく拭き取る。また前記ブラシ片の先端部が、前記エアフィルターの網目にくい込み、かつ根元部が先端部に比べて太いので、腰のある除塵体が形成され、エアフィルターに付着した塵埃を効率よく掻きとることができる。また、前記エアフィルターの網目の破損を少なくするとともに、前記空気調和機の表面に傷をつけずに清掃ができる。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0013

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0013】

第4の発明は、本体に設けられた吸込口と吹出口を結ぶ空気通路に、除塵用のエアフィルターを配置してなる空気調和機において、前記エアフィルターに付着した塵埃の除去手段として、基台とブラシ片を有する除塵体が形成されており、前記ブラシ片は、先端部が前記基台平面に対する垂直方向に対して傾斜角度を有していることを特徴としているので、前記エアフィルターの表面に強い力で接触し、または前記エアフィルターの網目にくい込み、前記フィルターに付着した塵埃を効率よく掻きとることができる。また、反対に戻る際には柔らかく接触するので、前記エアフィルターの表面を効率よく拭き取ることができる。